

30年3月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 3月1日～ 30年3月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
仕入動向	国産材製材品	0.0	6.3	18.8
	外材製材品	△ 18.8	△ 12.5	14.3
	構造用集成材	△ 21.4	0.0	14.3
消費動向	国産材製材品	6.3	25.0	25.0
	外材製材品	△ 6.3	6.3	18.8
	構造用集成材	△ 14.3	0.0	14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 6.3	0.0	0.0
	外材製材品	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	構造用集成材	△ 14.3	△ 7.1	7.1

・国産材製材品の仕入動向は3月の横ばいから4月、5月は増加に。外材は3月、4月の減少から5月は増加に。構造用集成材は3月の減少から4月は横ばい、5月は増加に。

・国産材製材品の消費動向は3カ月連続増加。外材は3月の減少から4月、5月は増加に。構造用集成材は3月の減少から4月は横ばい、5月は増加に。

・国産材製材品の在庫動向は3月の減少から4月、5月は横ばいに。外材は3カ月連続減少。構造用集成材は3月、4月の減少から5月は増加に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/3月	4月	5月
受注	0.0	7.1	28.6
加工	7.1	14.3	28.6
受注残	△ 21.4	0.0	16.7

・プレカット工場の受注は3月の横ばいから4月、5月は増加に。

・加工は3カ月連続増加。

・受注残は3月の減少から4月は横ばい、5月は増加に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・国産材、外材とも入荷順調。消費動向はやや増える。在庫は大きく膨らまないように注意している。構造用集成材の実勢はなし。
- ・受注とのバランスを見て仕入するが、3月以降の受注がまだハッキリしない部分があるので、やや絞り気味の仕入となると思われる。国産材以外の消費は、まだ少ないと思われる。外材製品の在庫はもっと減らしていきたい。
- ・新年度になって各種補助金が動き出すとともに、仕入、消費需要が増える。在庫は基本的に持たない。
- ・仕入は国産材、外材、構造用集成材ともスムーズ。

(受注動向)

- ・受注、加工とも高水準。春需顕著だが長続きしない。
- ・翌月、翌々月から受注が増えるかどうかは、まだ不透明。
- ・新年度になって各種補助金が動き出すとともに需要が増える。
- ・春需を迎え順調。